

にいかした

北から南から



イチローにはまる(二)

八木 三 男

イチローが昨年のMVP(最優秀選手)アスレックスのジェイソン・ジアンビーと競って僅差でアメリカン・リーグのMVPに選ばれた。ジアンビーはイチローにつぐ打率で、三十八本のホームランとリーグ有数の打点を残した。投票したスポーツ記者の数人がイチローをに極端に低く評価したために僅差になったと日本の新聞が報じた。日本やアメリカの野球解説者はこれまでアメリカでは打点やホームランの多いでMVPが選出されるケースが多かったから、イチローのようなホームラン八本、打点が打点王の半分しかないリードオフマン(一番バッター)にはMVPはないだ

ろうといっていたのだった。

だれでも知っていることだが、イチローの成績を並べてみよう。首位打者、盗塁王、ここ七〇年間の最多安打数、得点圏打率・内野安打数・複数安打ゲーム数タントツの一位、安打ゲーム数リーグ新記録タイ、得点二位。ファインプレー数知れず。そのために「魔法使い」といわれ、新人王とすぐれた守備に与えられるゴールドグラブ賞を獲得した。

なぜイチローがMVPに選ばれたか。イチローがアメリカ人の野球を見る目を変えたからだ。ベーブ・ルース以来のホームラン野球でないもっと楽しい野球があったのだと、それ以前のかつての野球の面白さをイチローによって思い出したのだ。

イチローの野球は見ていて面白くて楽しい。イチローの野球しか見ていないから他の選手たとえばジアンビーと比べてどうのといっているのではない。ホームランは一時的にプレーを中断させる。バッターがベースを回り終えるまで観客は喝采はするが、敵も味方みな



にもできないで見ていただけだ。イチローはめったにホームランを打たないかわりに、彼がヒットを打つと次々と面白いことがおきる。

まずイチローのリーグ一の内野安打だが、

大概が内野手の捕球が彼の俊足に負けてしまう。また負けまいとして完全に捕球しないまま一塁に投げようとするからエラーをする。

ピッチャーは二塁へのイチローの盗塁を警戒し過ぎてつぎのバッターへの投球を乱し、ヒットになるケースが多い。さらに彼は三塁に盗塁するケースが多く、それがマリナースの先制点の型をつくる。イチローのプレーには連続性と流れがある。

イチローのバッティングで相手が困惑するのは、打球がどこに飛んでいくかわからないことだという。マリナースのバッティングコーチもブーン選手もいっていたが、イチローにはほぼ五種類の打法がある。ストライクかもしれない難しい球をファールする、三塁線に流す、わざと球の下をたたいて野手の前に落とす、引っ張って長打する、だれもないところ

ろに自在に打つ。そう分析はできるが、なぜ瞬時にそれができるのかはわからない、彼は特別の選手なのだ。

とにかく、内野安打にする俊足の走塁、盗塁、捕球、走者を刺すための送球を彼はギリギリのところまでやってのける。それを彼は自己記録のためではなく、ゲームの流れの必然性のなかでやり、状況に応じてゲームを組み立てる。チームメイトはイチローは「して欲しいときに、して欲しいことをしてくれた」という。観客はわくわくしながらそれを見て感動するのだ。そこが豪快だが自己完結して連続性がないホームランとは違うところだ。

わたくしはイチローがアメリカに渡るまでは、七年連続首位打者、一シーズン二〇〇本以上安打の実績による彼の高名を知っていただけで、テレビで放映されなかったために、彼のプレーの実際をなにひとつ知らなかったのだった。イチローにはまっているらしい大江健三郎がテレビでいっていたが、ペリー以来一五〇年の日米交流のなかでイチローほどアメリカ

にいかした

北から南から



人にアピールした日本人はいない。きっとそうだろうとわたくしも思う。しかし、当のイチローはたんに野球の技術的高みを目指す求道的個人として自分を磨くことだけを考えているのだろう。日本という名のついた野球から解放されるために彼はメジャーリーグにいったのだろう。彼は日本人という枠を超えて、おそらくアメリカ人に最も敬愛される世界的なプレイヤーになるに違いない。

(やぎ みつお・にいがた県民教育研究所所長)

「メブラーナ」と 「念仏踊り」と

野口清人

二人一組になった僧がそれぞれ黒い上着を脱ぎ捨てると、白い（イフラーム）スカートの円筒形の帽子姿の集団が僅かな光の中に浮

かび上がってきました。ポストというシンバルに似た打楽器に続いてダブルという琴が鳴り出し、やがてこれに笛も加わります。一人が神とムハマンドを讃えるジクル（想起）を唱えだすと、左右に身体を揺らしていた白装束の僧は、上半身を強く揺らす動作に移り、スカートを翻しながら旋回を始めます。曲が早いテンポに変わると、僧の顔は恍惚感に充ちてゆきました。ジクルの目標である神に近づいたのでしょうか。時々スカートの巻き起こす風が見ている私の頬に当たりました。

アメリカ中枢部へのテロ事件があった九月、イスラム教の国トルコの Cappadocia 郊外の地下道場で、たまたま私はメブラーナの「行」に出会うことができました。

激しい肉体の運動を癒すため、行の後にふるまわれる甘い飲み物のお裾分けを頂きながら、私は長野県佐久市跡部に伝わる「念仏踊り」のことを思い出していました。

「念仏踊り」は手を振り、足をあげるなど踊っているような動作をしながら、念仏を唱